



代表取締役社長

水越 浩士

株主の皆様には、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。平素は、格別のご支援を賜わり厚く御礼申し上げます。

さて、当社第151期の上半期を終了いたしましたので、ここに営業の概況をご報告申し上げます。

当上半期の概況

当上半期のわが国経済は、中国を始めとしたアジアならびに米国向け輸出が増加し、また、民間設備投資に一部改善の兆しがあるなど、景気持ち直しに向けた動きが見られたものの、回復を実感するには至りませんでした。

このような状況の中、当社は、引き続き総力をあげてコスト削減に向けた諸施策を実行するとともに、収益確保に向けて懸命に取り組んでまいりました。

当上半期の連結決算につきましては、売上高は、都市ごみ処理設備の需要低迷による受注減少があったものの、鋼材輸出がアジア向けを中心に高水準で推移したことに加え、建設機械の中国における需要が拡大したことから、前年同期比2%増の5,870億円となりました。また、経常利益は175億円となり、税引き後の中間純利益は89億円となりました。

一方、単独決算につきましては、売上高は前年同期並みの3,870億円、経常利益は81億円となり、税引き後の中間純利益は51億円となりました。

このような収益状況ではありますが、当期の中間配当につきましては、その実施を見送らせていただきました。株主の皆様には、誠に申し訳なく存じますが、何卒ご理解賜わりますようお願い申し上げます。なお、本年6月の株主総会にてご承認いただきました資本準備金の取崩しにより、欠損金は一掃いたしました。

今後の課題 - 『2003-2005年度連結中期経営計画』

当社は、本年6月、『2003-2005年度連結中期経営計画』を策定いたしました。この経営計画では、「素材事業、電力卸供給事業および機械事業で社会に貢献し、その製品・サービス・技術が世の中から高く評価される存在であること。」を当社グループのビジョンとして掲げ、2005年度(平成17年度)を最終年度として次の数値目標を設定し、その達成に向けて重点施策を推進していくことといたしました。

● 主な数値目標

経常利益 800億円

ROA 6%

外部負債残高 6,400億円(2,500億円の削減)

● 重点施策

「オンリーワン・ナンバーワン」製品・サービス・技術を創出し続け、全社売上高に占める特長ある製品の比率を現在の30%から40%超にまで高める。

既存の提携の深化を図り実効をあげていくとともに、コア事業の更なる収益力強化に資する提携等を推進する。

市場のグローバル化に対応した供給体制を構築する。

3年間で400億円のコスト削減と1,000億円の設備投資を実施する(いずれも単体ベース)。

コーポレートガバナンスの強化、コンプライアンスの徹底、社会と調和した環境経営等を推進する。

当社グループは、この中期経営計画を着実に推進し、強固な経営基盤を構築してまいり所存であります。すでに、当上半期において、鋼材メーカーとして初めての自動車シート部品用高張力鋼板(ハイテン)の量産納入の開始、自動車用アルミ部品の北米製造拠点の設立、溶接材料や建設機械における海外企業との提携の推進、省エネ・高効率機械製品の上市と更なる開発を進めてまいりました。今後も本計画の取り組みを一層強化し、新たな展開を図ってまいりたいと存じます。

今後のわが国経済は、景気持ち直しに向けた動きが見られるものの、自律的回復軌道に入ったとはいえない状況にあります。

このような状況の中、当社は、事業競争力の向上を図るとともに、全社的な収益構造の改革を推し進め、本年度期末における復配を実現すべく、全力をあげて取り組んでまいります。

株主の皆様におかれましては、なお一層のご支援とご鞭撻を賜わりますようお願い申し上げます。

平成15年12月